

研究会とりまとめ素案の骨格

資料 1

(※研究会報告書のタイトルについても御議論いただきたい)

I 現状認識と課題設定

○ 社会の変化

- ・ 少子高齢化の進行と従来の安心のシステムの変容
- ・ 地域社会の変化

○ 地域の課題

- ・ 地域における多様な福祉課題
 - － フォーマルサービスだけでは対応できない生活課題
 - － フォーマルサービスによる総合的な対応が不十分であることから生じる問題
 - － 社会的排除の対象となりやすい者への対処や少数者への地域の無理解から来る問題
- ・ 「地域移行」という要請
- ・ 住民の自己実現ニーズの高まり
- ・ 地域福祉の課題

○ 福祉・医療政策の施策の動向

- ・ 近年の福祉制度改革
(高齢者福祉、障害者福祉、児童福祉、在宅医療の推進)
- ・ 近年の福祉施策の方向性
 - ① 利用者本位の仕組み
 - ② 市町村中心の仕組み
 - ③ 在宅福祉の充実
 - ④ サービス供給体制の多様化

II 地域福祉の意義と役割

- 共助の空間を地域の中に位置づける
- 地域で求められる支え合いの姿
- 地域の生活課題に対応する
- 住民が主体となり参加する場
- ネットワークで受け止める

コミュニティ再生の軸としての福祉

※ 留意すべき事項

- ・ 多様性を認め、画一化しない
- ・ 地域が持っている負の側面
- ・ 個人情報の取扱い

III 地域福祉を推進するために必要な条件

- 住民主体を確保する条件があること
- 地域の生活課題発見のための方策があること
- 適切な圏域を単位とした活動であること
- 地域福祉を実施するための環境について
 - ・ 活動の拠点
 - ・ コーディネーター
 - ・ 活動資金
- 担い手について

市町村の役割

既存施策の見直し